吉野川加茂第二箇所

ニュースレター第4号

吉野川と地域文化・景観を考えるワークショップ

第4回ワークショップを開催しました！

平成21年11月25日発行

地域文化・景観に配慮した堤防整備のための「吉野川加茂第二箇所 吉野川と地域文化・景観を考えるワークショップ」の第４回目が、平成２１年11月12日（木）に開催されました。

日時　平成21年11月12日（木）　18：30～20：30　**主催**　吉野川中流域地域文化・景観懇話会

場所　東みよし町役場２階多目的ホール　**参加者**　東みよし町の方々10名

テーマ　「堤防整備の方向性、具体的なイメージについて考える」

プログラム

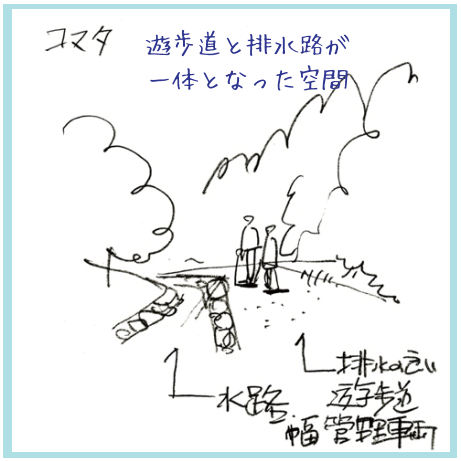
1. 当日のスケジュール説明
2. 堤防整備計画について
3. 第３回ワークショップ、第２回地域文化・景観懇話会の報告
4. テーマについて
5. グループに分かれての話し合い
6. 次回の連絡

本ワークショップは、「吉野川中流域地域文化・景観懇話会　（会長：山中英生　徳島大学大学院教授）」が主催しています。
第４回ワークショップには、懇話会から、山中英生会長、三好末吉委員、前田安夫委員、大和武生委員も参加しました。
ワークショップ開催にあたっては、徳島大学地域創生センターが地域貢献事業として協力しています。

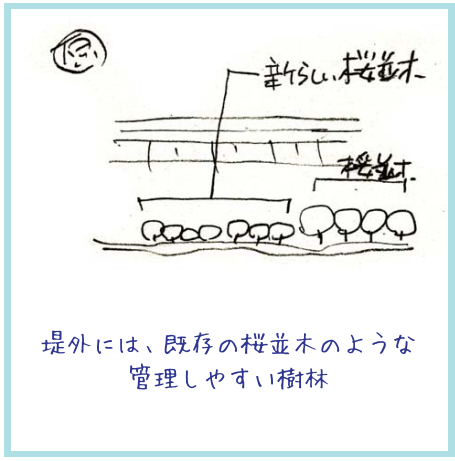
今回のワークショップで、堤防の具体的なイメージを話し合いました

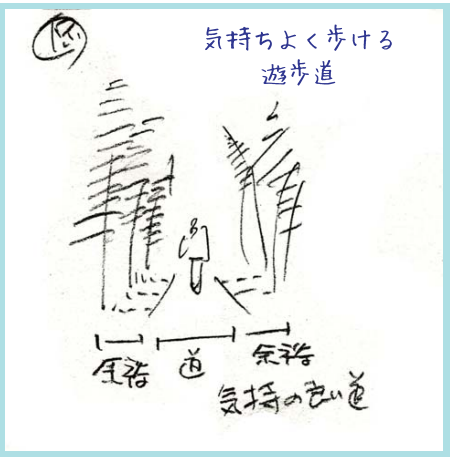
今回のワークショップでは、こまた・高島地区、原地区にしぼって、堤防整備の方向性や具体的なイメージについて話し合いました。また、出てきた意見をスケッチで表現し、具体的な姿について考えました。話し合いの結果から、自然的な印象の堤防が求められていることがわかりました。

こまた・高島地区



原地区





今回のみなさんの話し合いによって
堤防整備の方向性が見えてきました

高島・こまた地区

● こまたと遊歩道について

・こまたを活かした遊歩道は、季節の移り変わりが感じられるような遊歩道にしたい。
→今ある雑木を生かしたり、桜を植えたりすることが考えられる。

・こまたの流路に、堤内地の排水を流す計画があるので、コンクリートで排水路を整備するのではなく、自然のせせらぎのような水路にしたい。

・こまたの遊歩道と堤防との交点となる場所には、階段・スロープなどを設置したい。
→勾配が緩やかなものがよい。

● 道について

・川へのアクセスは、車で通れる箇所を最低でも１箇所つくって欲しい。

・堤防の川側、住宅地側ともに、耕作作業などするための車が通れる側道があるとよい。

原地区

● 植樹について

・対岸からの風景よりも、むしろ住宅地側からみた風景のほうに力を入れてほしい。
→等間隔ではなく、自然的な印象の配置が良い。
→管理のしやすい樹種が良い。
→堤脚水路はコンクリートのボックス型ではなくせせらぎのような水路が良い。

● 道について

・堤防に車も通れるスロープを設置したい。
→スロープは直線的なものではなく、曲線を用いたやわらかな印象のものがよい。
→出来れば３つほしいが、優先順位としては駅から直接向かう道につけてほしい。

・住宅地から水辺につながる現在の道と堤防との交点には、階段を設置したい。
→堤防整備後も、今ある道からのアクセスは確保して欲しい

● 竹林の管理について

・竹林の中を通る管理のための道が欲しい。
→竹林の中の道は、舗装をし、散策路としても使えると良い。

今回のワークショップの最後に懇話会会長山中教授からアドバイスを頂きました

堤防がつくられることによって、今までこの地域に無かった「**堤防の上**」という新しい場所が誕生します。それに際して、この場所をどのように利用していくのかも考えてみてください。

ワークショップ参加者の声

ワークショップを終えた参加者のみなさんの感想をご紹介します！

● 堤防に車が上がれる坂路も必要だが、人が上るための階段も必要である。

● 地域の自然、生活に密着した堤防になって欲しい。

編集後記

今回のワークショップから堤防の形状についての話し合いが始まり、このワークショップもいよいよ大詰めという感じがしてきました。今回の話し合いの中でよく話題にのぼっていたのは「竹林は管理が大変」ということでした。今までの話し合いの中で、吉野川の景観を形成している竹林は残したいという意見が出ていましたが、そこには、管理を誰が行っていくのかという問題が付いてくるということを感じました。
管理は所有者の人に任せっきりというのではなく、地域のみなさんと一丸となって竹林を楽しみながら管理できるイベントなどを企画していければおもしろくなるのではと思いました。　北村　征也

発行　徳島大学地域創生センター　担当　地域マネジメント部門 088-656-7578（真田）